

オブジェクト指向と ゲームプログラミング

フレームワーク編 - 第2回 アプリケーションクラスの作成

課 題

ゲームアプリケーションを表現するクラスCGameAppを作成しましょう。

オブジェクト指向では、継承や集約を用いて既存のクラスを拡張していくことにより、作業効率を高めます。ゲーム向けアプリケーションクラスの場合は、さまざまなアプリケーションに共通する部分をクラスまたはインタフェース化し、それを継承または集約して拡張するような設計にします。

今回は、テーマをゲームに絞るので、そのような設計にはせず、CGameAppクラスにすべてを定義することにします。

(1) CGameAppクラスのヘッダファイル(GameApp.hpp)を以下のように作成しましょう。

- GameApp.hpp -

```
/*
=====
                        オブジェクト指向ゲームプログラミング
Programmed by Hibikino software. Copyright (c) 2005 Hibikino software. All rights reserved.
=====
【対象OS】
Microsoft Windows2000/XP

【コンパイラ】
Microsoft Visual C++ 2005

【プログラム】
GameApp.hpp
                        ゲームアプリケーションクラスヘッダ

【履歴】
* Version      1.00      2005/03/dd hh:mm:ss
=====
*/

#pragma once

/*****
/*                      インクルードファイル                      */
/*****
#include <windows.h>

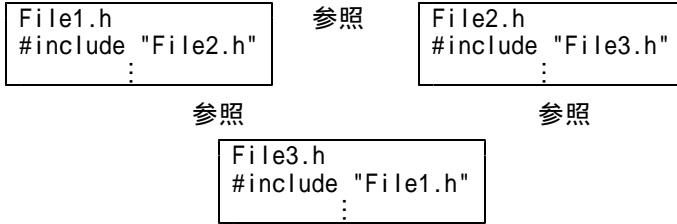
/*****
/*                      ゲームアプリケーションクラス定義                      */
/*****
class CGameApp {
public:
private:
    CGameApp(const CGameApp&);           // コピーコンストラクタを生成しない
    CGameApp& operator=(const CGameApp&); // 代入演算子を生成しない
};
```

ヘッダファイル(.hまたは.hpp)は、ソースファイルやほかのヘッダファイルの冒頭でインクルードされるファイルです。

ヘッダファイルの目的は、ほかのファイルで必要となる情報(対応するソースファイルで定義されている関数のプロトタイプ、ほかのファイルでも参照する定数、クラス、構造体、列挙体などの宣言および定義を行うことです。

ヘッダファイルの冒頭には、必ず「#pragma once」と記述しておきます。これは、同じヘッダファイルは1度しかインクルードしないという指定です。間違っても(または暗黙のうちに)2回以上インクルードしたときの「すでに定義されています」といったエラーを防ぎ、次のようにヘッダファイルを互いに

参照しあって無限にインクルードしてしまうという現象を防ぐことができます。



(2) CGameAppクラスのソースファイル(GameApp.cpp)を以下のように作成しましょう。

- GameApp.cpp -

```
/*
=====
                          オブジェクト指向ゲームプログラミング
Programmed by Hibikino software. Copyright (c) 2005 Hibikino software. All rights reserved.
=====

【対象OS】
Microsoft Windows2000/XP

【コンパイラ】
Microsoft Visual C++ 2005

【プログラム】
GameApp.cpp
      ゲームアプリケーションクラス

【履歴】
* Version    1.00    2005/03/dd hh:mm:ss

=====
*/

/*****
/*                          インクルードファイル                          */
/*****
#include "??????.???"

```

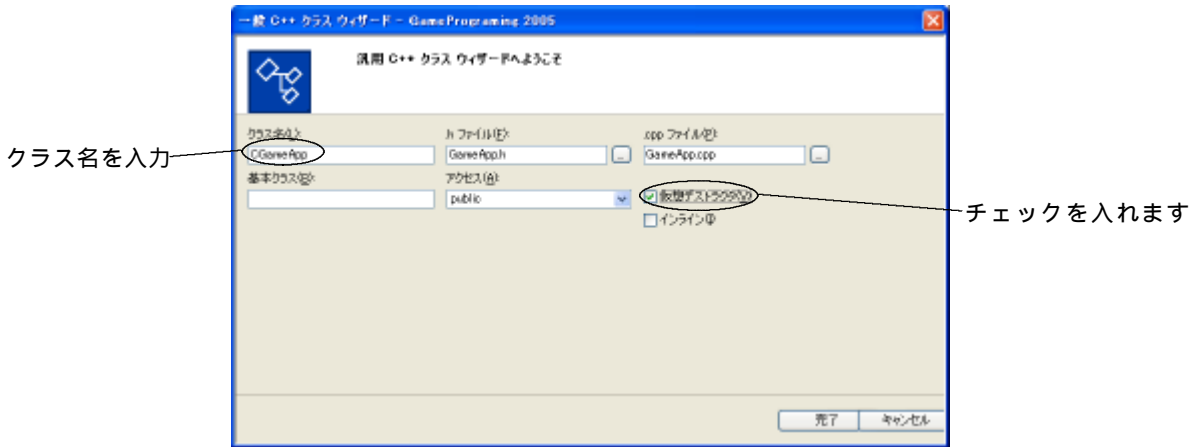
(3) CGameAppクラスのコンストラクタとデストラクタを作成します。ヘッダファイルに、コンストラクタとデストラクタのプロトタイプを記述しましょう。なお、デストラクタは、念のため仮想デストラクタとして宣言しましょう。

(4) CGameAppクラスのソースファイルに、コンストラクタとデストラクタを実装します。以下のプログラムの足りない部分を補って完成させましょう。

```
*****
/*                          コンストラクタ                          */
*****
?????????:CGameApp()
{
}

*****
/*                          デストラクタ                          */
*****
?????????:~CGameApp()
{
}
```

(1)~(4)の作業は、クラスウィザードにある程度行わせることができます。クラスウィザードは、メニューから「プロジェクト(P) クラスの追加(C)」を選択します。クラスの追加ダイアログが開いたら、「カテゴリ(C)」の「一般」、「テンプレート(T)」の「一般 C++ クラス」が選択された状態で追加ボタンをクリックします。



汎用 C++ クラスウィザードが表示されるので、「クラス名(L)」にクラス名 "CGameApp" と入力すると、ヘッダファイルやソースファイルの名前が自動的に設定されます。「仮想デストラクタ(V)」にチェックを入れて完了ボタンをクリックすると、CGameApp クラスが最低限作成されます。

(5) CGameApp クラスに必要な機能を追加します。最低限必要なのは、アプリケーションの初期化を行う機能、使用していた資源を解放する機能、そしてメイン処理を実行する機能です。それぞれ、Initialize 関数、Release 関数、Main 関数とします。これらの関数のプロトタイプは、以下のようになります。ヘッダファイルの適切な場所に追加しましょう。

```
bool Initialize();
void Release();

int Main();
```

(6) ソースファイルに Initialize 関数、Release 関数、Main 関数を実装します。以下のプログラムの足りない部分を補って完成させましょう。

```

/*****
/*                               初期化                               */
*****/
bool ??????::Initialize()
{
    return ???;    // 成功
}

/*****
/*                               解放                               */
*****/
void ??????::Release()
{
}

/*****
/*                               メイン                               */
*****/
int ??????::Main()
{
    return 0;    // 正常終了
}

```

(7) CGameApp クラスのメンバは、以下のとおりです。

CGameApp コンストラクタ
CGameApp オブジェクトを構築します。

~CGameApp デストラクタ
CGameApp オブジェクトを解放します。

Initialize

初期化

アプリケーションを初期化します。

```

書式 bool Init();
Return 初期化成功 : true それ以外 : false

```

Release

解放

アプリケーションが使用していた資源を解放し、プログラム終了に備えます。

Main メイン処理

アプリケーションのメイン処理を行います。

```

書式 int Main();
Return 正常終了 : 0 それ以外 : 0 以外

```

(8) WinMain.cppのコメント「インクルードファイル」以下の部分を、以下のように変更しましょう。
 なお、足りない部分は補ってください。

```

/*****
/*                               インクルードファイル                               */
/*****
#include "GameApp.hpp"

/*****
/*                               WinMain関数                               */
/*****
int ?????? WinMain(????????? hInstance, ?????????? hPrevInstance, LPTSTR lpCmdLine, ??? nShowCmd)
{
    // CGameAppオブジェクト生成
    ?????????? App;

    // アプリケーション初期化
    if(App.????????????() == false)
        return -1;

    // メイン処理
    const int ret = App.?????();

    // 解放
    App.?????????();

    return ret;
}

```

WinMain関数は、CGameAppクラスのデストラクタを正しく記述することにより、以下のように省略することができます。

```

int ?????? WinMain(????????????? hInstance, ?????????????? hPrevInstance, LPTSTR lpCmdLine, ??? nShowCmd)
{
    // CGameAppオブジェクト生成
    ?????????? App;

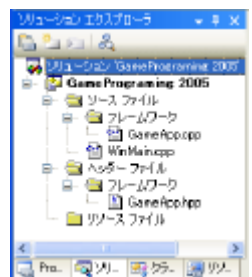
    // アプリケーション初期化
    if(App.????????????????() == false)
        return -1;

    // メイン処理
    return App.?????();
}

```

(9) ソリューションエクスプローラに、フレームワーク用のフォルダを作成しましょう。

フォルダを作成するには、ソリューションエクスプローラの「ソース ファイル」で右クリックし、「追加(D) 新しいフォルダ(F)」を選択します。作成されたフォルダを「フレームワーク」に変更し、GameApp.cppを移動します。



(10) ヘッダファイルGameApp.hppも同様にフォルダを作成し、移動しましょう。